

第5回ヒストンバリエーション研究会

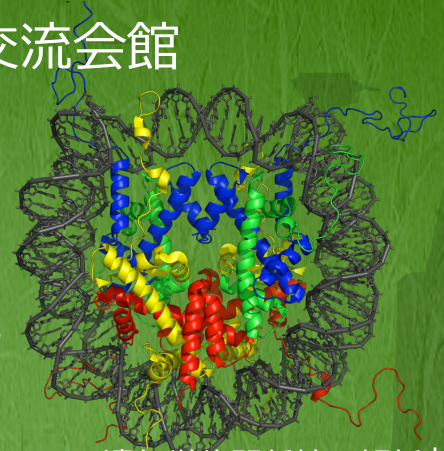
2018年2月10日（土）

首都大学東京 南大沢キャンパス 国際交流会館

(参加費無料・要登録)

〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1

京王相模原線 南大沢駅より徒歩10分



12:00 受付開始

13:00 オープニング

13:10-13:35 阿部 拓也 (首都大学)

「複製フォーク構成因子とヒストンバリエーションH2AX、DNA修復因子の遺伝学的関係性の解析」

13:35-14:00 有村 泰宏 (早稲田大)

「失敗から学ぶヌクレオソーム構造・機能解析」

14:00-14:25 越阪部 晃永 (Gregor Mendel Institute, ウィーン)

「基部陸上植物ゼニゴケにおけるヒストンバリエーションの機能解析」

14:25-14:50 中村 麻子 (茨城大)

「ヒストンH2AXのバイオロジー：DNA損傷修復から上皮間葉転換まで」

14:50-15:15 品川 俊恵 (理研)

「卵子に大量に存在するヒストンバリエーションTH2A/TH2Bによる核のリプログラミング」

休憩

15:35-16:00 原田昌彦 (東北大)

「クロマチン構造形成におけるH2A.Zの機能とその進化的保存性」

16:00-16:25 舩本 寛 (かずさDNA研究所)

「セントロメアとヘテロクロマチンはどうやって反復DNAに維持されているのか？」

16:25-16:50 関 政幸 (東北医科薬科大学)

「ヒストン H2A とバリエーション H2A.Z の共通機能」

16:50-17:15 田代 聡 (広島大)

「ヒストンバリエーションによるゲノム損傷依存的RAD51核内フォーカス形成の制御」

17:15-まとめ・総合討論

17:30-懇親会

問い合わせ先：廣田 耕志 khirota@tmu.ac.jp

(首都大学東京理工学研究科分子物質化学専攻)

共催：新学術領域研究「動的クロマチン構造と機能」

